



今年も高野寺で青空健康チェック・・・中地区



中地区は4月21日(木)に遍照山 覚樹院高野寺(元寺町)で青空健康チェックを行いました。

この日は御大師様の日ということもあり、多くの参拝者で賑っており、2時間30分と短い間に約50名の方が健康チェックを受けられました。境内で露店を出していた若い方々の姿もあり、老若男女を問わず健康に関しては皆関心があるということを実感しました。



～厄除弘法大師・ぼけよけ霊場の高野寺をちょっと紹介～

遍照山 覚樹院高野寺は、寺号が示すように弘法大師を御本尊とする寺です。この大師像は、元は保田荘梁瀬の里に鎮座、その地の庶民を飢饉から救った霊験あらたかな像として尊拝されていました。慶長年間、国主浅野幸長がこの像を高野山興山寺の勢誉法印に下賜し、これを現高野寺の地にお祀りし、寺は開基されたそうです。

この大師像は弘仁7年(816)に、大師自ら刻んだものとされ、像の顔から仏舍利が出たため「舍利吹き大師」また飢饉の際、不毛の地に野菜が生え人々を救ったことから「不蒔菜(まかずな)の大師」などと呼ばれました。大使が自分の42歳厄除けのための作であると云われています。空襲の際にも寺は全焼したが、大師像は難を逃れ現在に至っています。毎月21日は「弘法の日」で厄払い祈願で多くの方々が参詣します。また高野寺は17番法輪寺に続く「ぼけ除け霊場」でもあり、近年ますます参詣が盛んです。場所は、シティワカヤマの北側です。一度訪れてみてはどうでしょう。

スグにぶらぶら会・中地区

みなさん達者でなにより

4/19(火)中地区では、ほぼ1年ぶりとなる「ぶらぶら会」例会を開催しました。朝から小雨がぱらつき開催も危ぶまれましたが、参加者の日頃の行い(?)のお陰で集合時間には晴れ間も…。目的地となった岬町「せんなん里海公園」では少し肌寒さがあつたものの、園内散策をしたり、各自の手作りお弁当を食べたりと春のひとつきを十分満喫することができました。帰りもパワー全開で予定の駅より1つ先まで歩いて和歌山に戻りました。



「命に向き合う」

大震災支援に行っている宮城・坂総合病院・クリニック職員さんのアピールです

2011年3月11日午後2時46分 M9.0の大地震・津波・原発事故想像を絶する大災害の中 わたしたちは多くの命に向き合った

患者さんは 利用者さんは 立ってられないほどの揺れの後に 気遣ったことは わが身よりそれぞれの職場のことだった

雪と寒風にさらされ 氷点下の中 何時間玄関前に立ったのだろう
 いったい何人に聴診器をあてたのだろう
 何枚のカルテを書いたのだろう
 1階から10階まで何度、階段を往復したのだろう
 いったい何個のおにぎりを握ったのだろう
 支援物資の箱をいくつ仕分けしたのだろう
 家族とわが家を案じながら 何日も病院に泊まり続けた仲間がいる
 徒歩で 自転車でも さらに避難所から通勤している仲間もいる

わたしたちはどれほどの涙を流したろう
 助けられなかった命に
 犠牲となった仲間が 愛する者・住み慣れた家を失った仲間
 北海道から沖縄まで 追いつけないほどの全国の民医連の仲間からの支援に
 余震の中で産声をあげた小さな命に 避難所となった小学校の卒業式に
 ひげが伸び放題の顔が お化粧をしていない顔が こんなにも美しいことに

「お疲れさま」「よろしくお願ひします」と声をかけあうたびに

原発をはじめあらゆる復旧活動に従事している人に
 流通・販売 教育・保育・福祉 あらゆる職業の人に
 すべてを失い 愛する者を亡くし 悲しみと不安の中にありながら
 不自由な避難生活の中でも毅然としている人たちに
 はるか遠くの地におやつを我慢して募金する幼子から
 手を合わせ復興を祈るお年寄りに
 エールを送ってくれている日本中の人たち全てに対して
 わたしたちは 誇りを感じている

わたしたちが いま なすべきこと それは
 目の前の命に向きあうこと
 つぶされそうな心を 破裂しそうな心を とともに分かち合うこと
 夜明けがいつかは分からないが「明けない夜はない」ことを信じること
 そして 前に進む
 犠牲となった多くの命を決して忘れず 生かされていることに感謝し
 心を高く挙げて しっかりと歩んでいこう

2011年3月31日 坂総合病院・クリニック職員一同